

＜今日の説教のポイント II コリント 1章23節～2章11節＞

1 今はコリントの教会に行かない — パウロがそう言う理由とは？

この箇所はまず状況をとらえておく必要があります。パウロはコリントの教会を何度か訪れ、その間に何度も手紙を送っています。ある時、パウロはコリントで起こった問題について厳しく叱責した手紙を書き送りました(2:3-4)。その後で、「今はまだコリントに行かない。なぜなら」(1:23)と言って、その理由を述べているのが今日の箇所です。

2 (1:23-2:4) キリストへの信仰にしっかり立つ信仰者となること!

パウロはコリントの教会の信者が一人立ちすること、否、キリストによって立つ者となることを願っています。信仰者の多くは自分を信仰に導いてくれた良き導き手を持っています。しかし、どんな立派な導き手も神ではなく、キリストによる救いを必要とする人間です。パウロは、「わたしたちは、あなたがたの信仰を支配するつもりはなく、むしろ、あなたがたの喜び(キリストを持つ喜び!)のために協力する者です。あなたがたは信仰(キリストに依って立つ信仰!)に基づいてしっかり立っているからです」(1:24)、と語るのです。「傍にいてあげる」ということが良しとされる時、「傍にいてほしい」と求め、「傍にいてくれない」と嘆きやすいものです。しかし、それは人間に求めるには限りがあり、ただイエス・キリストにのみ求められることなのです。パウロが「まだコリントに行かずにいる」(1:23)のは冷たいのではなく、コリントの信仰者もそのことが分かっている、分かるはずと確信しているからなのです(2:1-4)。

3 (2:5-11) パウロの姿に学ぶべきは、その寛大な赦しの姿!

「わたしが何かのことで人を赦したとすれば、それは、キリストの前であなたがたのために赦したのです」(2:10)。ここに記されたパウロの言葉を聞く時、彼の赦しの寛大さに驚かすにはおれません。それもまた2で述べた、真の神にして真の人なるイエス・キリストの存在を真剣に信じているからできることなのでしょう。「わたしたちがそうするのは、サタンにつけ込まれないためです」(2:11)。キリストを前にしていると考える時、私たちの中に芽生えた悪しき思い(怒り)も小さくなっていくからです。